

京 佛

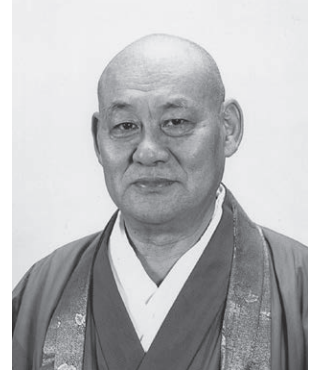
夏 季 号



京都市 月輪寺 重文 木造十一面観音立像

一般財団法人 京 都 仏 教 会

〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	理事	〃	〃	常務理事	理事長
長澤香静	伏見浄香	佐伯功勝	奥垣内圭哲	横江桃国	町田泰宣	菊入諒如	森孝忍	三浦文良	谷内弘照	安井攸爾	坂口博翁	佐分宗順	宮城泰年	有馬頼底
〃	名誉顧問	相談役	〃	監事	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	評議員
上村貞郎	東伏見慈晃	北川隆法	小澤昭美	川村俊弘	田邊宗一	田中恵厚	掃部光昭	山木雅晶	澤宗泰	北園文英	砂原秀輝	大西真興	荒木元悦	
〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	〃	参事
舞鶴東仏教会会長	三和町仏教会会長	大江町仏教会会長	綾部市仏教会会長	福知山市仏教会会長	加悦谷仏教会会長	京丹波町丹波仏教会会長	京丹波町和知仏教会会長	戸田妙昭	能登春夫	沢田教英	吉田清順	華園源昭		
堀尾大直	村井俊道	梅原正俊	中嶋暁道	佐々木善数	松尾玄幸	田原良英	竹中成圓							



理事長報告

無事

臨濟宗相国寺派管長

理事長 有馬 頼 底

れた一年でございました。ただ東京五輪を目前に生命と経済の両立を目指した政府の政策はまだまだ迷走を続けています。

当会の令和二年度の活動は「おしゃかさまを讃える夕べ」の中止以外は、コロナ対策を講じながらの春秋焼骨灰供養法要、お盆の採燈大護摩供、成道会等の仏教諸行事は滞りなく執行することができ、また「明日の京都文化遺産プラットフォーム」の活動につきましても設立十周年を迎え、記念のシンポジウムやフォーラム、京都の防災水路の確保の研究会、羅城門復活の呼びかけ会見等行いました。

加えて五月にはコロナの渦中、全日本仏教会が宗教法人にも持続化給付金をと政府与党と協議に入ったことを受け、当会は憲法違反であると宗教と社会研究実践センターの先生方からの提言を受け、中外日報社に全国版で反対の意見広告と声明を发表致しました。またそれに關し二回に渡る研究会を開催致しました。このことは宗教の存立にかかるとして講演録としてまとめ、研究本として刊行し全国に配布致しました。

令和三年度は、コロナの影響は残るとは存じますが、ワクチン接種の進行等明るい兆しも見え始めてきております。例年の宗派を超えた仏教諸行事、社会福祉活動、府市行政や宗教連盟との諸団体関連会議、宗教と社会研究実践センター研究本「監視社会・中国の宗教法令を通して」の刊行等の活動も積極的に展開致す所存でございます。

本年も信教の自由・政教分離の原則を重んじ、各宗教とも情報交換を行い、各識者の方々とより積極的に交流を行って参ります。

無事

人間誰しも無事でありたいと願うのは同じです。しかし、それは言っても無事であり続けるのはなかなか容易なことではありません。病気になることもあつて、急な事故に遭わないともかぎりません。また、生きていればさまざまな苦しみや悲しみもあるでしょう。一生を振り返ってみれば、無事であったときのほうが、むしろ少な

いかもありません。しかし、だからこそ無事であることの喜びにはひとしおのものがあるのだと思いますつまり、「無事」と言うのは何事も無い、何事も起こらないという意味ではあるけれども、同時にそこに至りつくまでのさまざま難関、紆余曲折を一つ一つ乗り越えたあとの喜びというニュアンスがあるのです。険しい山をいくつもいくつも踏み越えて、ようやく辿り着いた平坦な道、そしてそれまでの苦しい道のりを振り返って「ああ、無事でよかった」とほつと安堵する、それが「無事」という言葉にこめられた本当の意味だろうと思うのです。

ただ何もしないで、平々凡々と過ぐす無事ではなくて、人に言えない努力を重ねたあとに、ようやく獲得した無事、しみじみと何事も無いことのありがたさを喜び合う無事、そういう境地に立ちたいものだと思うのです。

まだまだ続く暑さでございますが、諸大徳の皆さまの更なるご健勝を心より祈念申し上げます。次第でございます。

合掌

歴史都市京都と今の学生

—明日の京都 文化遺産プラットフォームに参加して—

京都光華女子大学
学長

高 見 茂



歴史都市京都は、794（延暦13）年、桓武天皇による長岡京から山背国葛野郡宇太村への遷都によって始まった。平城京から長岡京への遷都については、既存仏教勢力や貴族勢力から距離を置く、帰化人勢力との関係、難波津―大和国―鈴鹿関ルートに代わり淀川―山背国―琵琶湖―近江国の経路の完成、天武天皇の皇統から天智天皇の皇統に戻ったことによる人心一新等の説がある。

しかし長岡京は10年足らずで放棄され、新しく平安京が造営されたのであるが、その根底には長岡京遷都に纏わる様々な陰謀や怪奇現象があったとされる。桓武天皇の身辺で、787年に妃藤原旅子が、790年に皇后藤原乙牟漏と生母高野新笠が謎の死を遂げ、さらに皇太子安殿親王までが病に罹るといふ異変が生じた。陰陽師の占いにより、長岡京遷都の責任者であった藤原種継暗殺の嫌疑がかけられ肅清された早良親王の怨霊のなせる業であると結論付けられた。また桓武天皇は、父光仁天皇の暗殺容疑をかけられ廢嫡された他戸親王とその母親である井上内

親王の祟りも恐れていたと言われている。そのため怨念の渦巻く長岡京を脱し、新都造営地を求めたとされる。

新都の造営に当たっては、当時の最先端科学であった「風水」が活用され、「四神相応」の地として山背国葛野郡宇太村が選ばれたのである。「四神相応」とは、東西南北の四方を神で守られた土地、すなわち北に玄武、南に朱雀、東に青龍、西に白虎という神々が配されている土地の事を指す。四神の考え方としては、中国・韓国流の考え方と日本独自の考え方がありと言われている。前者の場合は背後に山、前方に海、湖沼、河川の水が配置される「背山臨水」の地で、左右から砂（さ）と呼ばれる丘陵もしくは背後の山よりも低い山で囲む事で「藏風聚水」（風を蓄え水を集める）の形態の地を理想とする。この説によると京都は背後の山としては北方に連なる北山が、砂としては東山と西山が、水としては巨椋池（おぐらいけ）干拓によって今は消滅している）が条件に該当すると指摘されている。また日本独自の考え方は「山

川道澤」説と呼ばれるもので、「四神相応」の条件は、北に玄武として丘陵、東に青龍として流水、南に朱雀として湖沼、西に白虎として大道が揃う事であるとされる。「山川道澤」説によると、玄武としては船岡山が、清流としては鴨川が、朱雀としては巨椋池が、白虎としては山陰道が条件に該当すると解釈されている。

何れの流儀でも平安京は、「四神相応」の条件を充足する地であり、新都として相応しい地として認められたと指摘できよう。また怨霊の祟りを恐れ、平安京には徹底して結果が張られた。すなわち平安京の周囲4か所にあった「磐座（いわくら）」を掘り起こし、悪鬼を退散させる「一切経」をその下に埋め込んだ。そして平安京の周囲に天照大神の弟の「素戔嗚尊（すさのおのみこと）」を「大將軍神社」として祀った。鬼門対策として、北東に上賀茂神社、下賀茂神社、上御霊神社、比叡山延暦寺等を、また裏鬼門対策として南西に石清水八幡宮を配置し、風水・陰陽道による怨霊・悪霊の祟りを封ずる手立てを構じた。平安京が

明治初年に至るまで、1000年を超える都在り続けたのは、風水・陰陽道に基づく街づくりの故なのかも知れない。

こうした歴史を背景に、京都では1000年にわたって営々と伝統技術・技芸、芸術が育まれ、現代の京都ではそれをベースにしたイノベーションが進展した。たと

えば仏具・神具製作を生業にしていた島津源蔵は、京都大学の礎となった当時の科学研究の拠点、舎密局に出入りし、教育用理化学機器や錫製の医療用ブーシーの製造、蓄電池の開発を始めた。また伝統的な西陣織の技術は半導体メモリーの製作に、京焼や清水焼の技術はセラミックやコンデンサーの製作に、酒造りは創薬、バイオ産業の育成、iPS幹細胞の開発に繋がったとされる。

先日、筆者が担当している京都大学の学部学生対象科目で、上記のような風水・陰陽道による平安京造営、京都とイノベーションに関わる話題を取り上げた。併せてそもそも京都大学は、「I」東京遷都によって人口が一気に3分の2に急減した京都の活性化の願

いを込めて、京都府、京都市から巨額の支援を得て創設・発展してきた事実、「II」京都の近代化・イノベーションと有機的つながりを持ちつつ発展してきた事実にも言及したが、授業評価を見ると受講生には大きなインパクトがあったようである。

次回以降の授業では、京都と同様、大学と街が有機的なつながりを持ちつつ地域の歴史を形成してきた事例としてオックスフォードを取り上げる予定である。同域内に位置するオックスフォード大学は、世界トップの「研究型大学」で国内外から多くの学生・留学生が集っている。そして彼らは、大学の研究成果を基に郊外のサイエンスパークで新しい産業を立ち上げ、地域経済を支える好循環形成の重要な役割を果たしているのである。正に京都の近現代のイノベーションと同じ軌跡を辿っていると言えよう。尤も街と大学の関係性は、京都のように順調ではなかった時代もあり、1355年「聖スコラティスカの日」に起きた学生と住民の衝突では双方に多数の死者が出る事態となった。そもそ

も、優先順位と忠誠心の異なる二つの統治機構(街と大学)が同じペースを共有する事から、対立関係が生ずるのは必然であった。オックスフォード大学は、世界有数の「研究型大学」であるにも関わらず、地域貢献(いわゆるLocal Regional Engagement)にもたいへん熱心である事実は、こうした歴史的経緯が影響しているのかも知れない。すなわち中世以降、「Town (街) and gown (大学)」関係は常に緊張関係にあったが、先進的な「研究型大学」の発展の条件一つが、良好な「Town and gown」関係の維持・改善にある事を示唆するものである。

2021年度の京都市の人口は145万人を数え、市内の38の大学短大でその役1割に当たる15万人の学生が学んでいる。これからの時代、若い人たちはグローバル人材として世界に羽ばたく事が期待されている。グローバル人材とは、単に英語によるコミュニケーションができるだけでなく、日本の歴史・伝統・文化に深い造詣を持ち、それを英語で発信できる人材でなければならない。大学院

生の中には、国際学会で専門分野の発表・討論は英語でできても、懇親会等の非公式な場で自国の歴史・伝統・文化について議論することが苦手な者も多いという。近年、日本が国際機関の重要ポストを押さえる事ができず、国際的な影響力の低下を招き、さらに国益に関わる重要情報の入手も儘ならない実情にあるとも指摘されている。今の若者の実態に照らせば、案外その原因は自ずと明らかになるのかも知れない。

京都は、日本の歴史・伝統・文化が1200年に亘って蓄積されている。ゆえに京都の大学・短大で学ぶ学生にとっては、自己のアイデンティティを再認識し、真の国際人たらんがための学習環境が整っていると見える。京都の街と大学は、歴史的に良好な協力関係を維持・発展させ、真の国際人の養成を目指すべきである。「明日の京都文化遺産プラットフォーム」は、街と大学の橋渡しとして機能すると共に、地域と世界をつなぐゲートウェイとしての役割を期待されているのである。

『伝統建築に携わる中で』

—技術と伝統の現在—

京都府建築工業協同組合
理事長

木村忠紀



伝統建築に携わる私が（大工職なので主に）技術と伝統の現在について大工職を含めて職人について以下、短い体験をお話ししようと思います。

大工には、主に木造建築に携わる堂宮（宮）大工、数寄屋大工、町屋（野）大工、船大工は木造船造作大工は内装、主にRC造などに携わる仮枠大工がおります。

さて、「伝統建築」と呼ばれるものは堂宮と数寄屋がほとんどですが、近年、明治以降の木造建築物の一部が文化財の指定を受けてから、この分野でも伝統が芽生え始めています。私が大工を始めた頃には、すでに大工のなり手はほとんどなく、工務店の息子でさえ店を継がないか、あるいは継いでも技術者ではなく経営者か設計者として営業のみの後継ぎとなる人が増えてしまいました。

現在、京都市内の工務店の店主でも大工仕事の出来ない親方が相当数いると思います。その為、工務店内で若い職人を育てられないのが実情です。例えば、大工は自分の道具は全て自ら調整しますが、親方が調整できないと、当然若い職人に伝えることができないとい

ったような悪循環が生まれます。こうして昔の徒弟制度が半分崩れているように思います。また、若い弟子を育てるのに相当の費用を負担しなくては世に出せないのも現状です。建築関係の職人の仕事は3K（汚い・危険・きつい）などと言われ若者離れが顕著で、後継者がじり貧状態になっていることに加え、一人前になるには、相当の時間を要します。

まず、休業期間から考えますと、大工の場合最低でも10年。これは単なる職人となる期間の目安で、一人前になるのにさらに10年はかかります。特に伝統工法などではある国宝の門の解体修理現場で工期が約10年。この仕事で弟子入りしたら10年後には何ができるか：恐らく埋木（傷んだ部分を埋めたり、継ぎ足す）程度の事は出来ませんが、それ以外の事は出来ない「半職人」であるだろうと現場の人間は話していました。故に国宝修理現場に若い職人はほとんど見当たらない訳です（但し公務員の大工）。

なぜ職人が育たないか、育てられないか、育てないか。伝統建築では少数の専門工業者が独自で細々と育てているのが現状であり、

これでは十分ではないと思います。最近、大工の技を保存しようとする一部の学者や文化人が乗り出していきますが、机上の空論だと思えます。技術の保存に一番大切なことは、その仕事が進められずに続けば技術者は必ず増えてくるからです。仕事は少なく途切れがちになれば職人はほかの安定した業種に移動する上に、この世界に入ってくる人材も少なくなります。これは全ての職人の世界に通じます。一般の町屋大工についてもほぼ同じことが言えますが、この世界はもっと厳しい事情が伺えます。

一つは住宅単価の問題です。昔、住宅は不動産として家族で受け継ぐ財産でありました。長く住み継ぐために、修理の便利な軸組が見えている構造が多く、例えば天井などは天井板の貼替、壁は壁の塗り替え、床は畳の表替え、襖や障子の張替だけで良かったですが、今はそんな簡単ではなく下地から変えなくてはならない、単なる消費財産となってしまっています。

また、昔は住宅を建てる時に大工が墨付けをして刻んで組みましたが、今はプレカット加工という、家の軸組をコンピューターに入力

し、機械に材木を挿入すると穴あけ、柄付け、寸切り、継ぎ手・仕口加工、番付まですべて機械が加工して出てくるものが主流となっています。現在は、丸太や直材でない材木だけはこのプレカット加工が不可能で、これらの材料は工場の裏で大工が手刻みをしているのですが、この手刻みですらできる大工がいなくなるのも時間の問題だと思います。そしてプレカット加工が続けば大工は造作大工だけでよいこととなります。造作大工は設計図に従って、加工された仕上げられた木材や枠材、床材、天井材、壁材を取り付けるだけで、まるでプラモデルの大型を組み立てているのと同じなのです。木材を削る事も、穴をあけることも、仕口や継ぎ手を造ることもなく、ただ長さだけを電動式丸鋸で寸法切をして、接着剤を付けて釘やビスで取り付ければ仕上がりです。それも電動のエアガンかインパクトドライバーでねじ込むだけ。金槌や玄能の音もしない。昔、建築現場には下小屋があり削り台が据わっていたが今は見かけることもほとんどありません。そのため鉋屑もなく、冬場の焚火も無くな

りました（環境問題で街中では無理ですが）。

建具も外部はほとんどがアルミサッシで、間仕切りや内部建具は枠と建具がセットになっているので、戸車か丁番の調整だけ。極端な例ですがほとんどの作業が大同小異です。

なぜこの様な状況になったのか。これは昭和40年代から始まった建売住宅の安かろう、悪かろうが始まりです。団塊の世代が親から独立し、家を持ちたい。親の家では結婚して一緒に住むだけの広さがない。これです。戦前から戦後15年間は借家が多く、持ち家が少なかったのです。借家はほとんどが狭小住宅のため2世帯や3世帯同居が出来ません。このため結婚時に小さい我が家を購入。子供が増えて家が狭くなると住み替える。この時、経済成長の加減で売れる家を買った時の値段より高く売れる。と言う状態が一時期ありました。話を元に戻します。全ての建築は長く使い、住み、用途に応じて使い分けることが理想です。木材は最低でも山で育った年数と同じ期間使えるのだと先輩たちが話していました。それならば山

の資源は枯渇なく回っていくはず。一般の木造建物は50年から100年周期の建て替えまで維持できると思います。堂宮以外の建物なら100年生までの木材でほとんどが出来ます。内地材を使えば山は喜びますし、何よりも他所の山を荒らさなくて済むのです。

前述では木造建物は50年〜100年維持できると申しましたが、例外があります。伊勢神宮の式年造営だけは20年で建て替えるのです。（因みに、解体した木材は末社や地方の神社に払い下げられて再利用されたと聞いております。）

少し悪い箇所を修理すれば済むのに、なぜ20年で建て替える必要があるのか、という疑問が出ると思います。職人なら簡単に答えが出るはず。それは「技の伝承」です。職人は同じことを3度経験すればそれなりの事が出来ます。10代で丁稚30代で普通の職人、50代で親方として仕事をこなす乍ら職人や丁稚の指導をする。これで技術は絶えることなく受け継がれますが、工事そのものは20年もかからない為、一部の職人以外は伊勢で生活が出

来ないので。この職人のストックヤードが近郊の奈良、京都などです。幸い奈良や京都は神社仏閣が多く、仕事量があり、また地方への出仕事も多かったからです。式年遷宮は建物だけでなく神具、橋、鳥居、末社などにも及びあらゆる職人が育てられました。また技は教えて貰うものでなく盗み取るものであり、親方は一々手を取って教えてくれません。親方や職人の仕事を自分の仕事をしながら横目で盗み見をして、自分のものにしていくのです。朝は職人より少し早く来て、今日の仕事の内容は現場か作業場かを親方から聞いて、不要な道具や材料の用意をして仕事の始まりを待ちます。新しいことが出てくると判らないこともありますが、考え抜いても本当に判らない時に親方は必ず答えてくれます。大工仕事に正解はありません。親方によって仕事の仕方一部違いがありますが、凡そは変わらないうえ、大切なことは、体に仕事を沁み込ませて覚えて行くことなのです。長々と取り留めのない話をしてしまいました、これで置きます。

京都府 京都未来の匠 「技の継承」事業

— 各ご寺院所蔵の未指定文化財の修理・復元 —

1 目 的

伝統産業の未来を切り開くため、京都が文化的に保持してきた繊細かつ高度なもののづくりを通して、失われつつある貴重な伝統産業の技術・技法を次世代へ継承するとともに、次代を担う後継者の育成を図る。

2 内 容

祇園祭各山鉦保存会や京都府内の社寺等が所有・管理する貴重な文化資料の復元新調等を通じて、若手職人（京もの認定工芸士）等が京の名工等の指導を受けながら、高度かつ稀少な技術の修得・技術向上を目的とした技術の研鑽・修得を行う。

3 事業主体

各山鉦保存会、社寺等

4 対象経費

染織品及び工芸品等の文化資料の復元新調等に係る経費
(人件費、材料費、事務費等)

5 補助率

2 / 3 以内

6 補助限度額

5, 000千円 / 物件

ご相談は京都仏教会へご連絡下さい
電話 075-223-6975

事業・活動報告

令和二年四月一日〜令和三年三月三十一日

*は当会主催の行事・会合

令和二年

- * 四月十四日 ことほはまつり開催 於 京都仏教保育園協会
- * 四月二十三日 「キッシュレス拝観」延暦寺宮城泰年常務理事申し入れ 於 延暦寺
- * 五月二十五日 全日本仏教会理事懇談会WEB会議出席 於 京都仏教会事務所
- * 五月二十八日 京都仏教会監査会開催 於 京都仏教会会議室
- * 六月 四日 京都仏教会常務理事会・宗教と社会実践センター緊急会議開催 於 聖護院門跡
- 六月十六日 全日本仏教会理事懇談会WEB会議出席 於 京都仏教会会議室
- 六月十九日 明日の京都文化遺産プラットフォーム理事会出席 於 立命館大学朱雀キャンパス
- * 六月二十三日 京都仏教会令和二年第一回臨時理事会書面決議 於 京都仏教会会議室
- * 六月二十三日 京都仏教会評議員選定委員会開催 於 京都仏教会会議室
- * 六月二十三日 京都仏教会第二回定時評議員会開催 於 京都仏教会会議室
- * 六月二十三日 宗教と社会実践センター第六回研究会開催 於 相国寺
- * 七月 一日 全日本仏教会理事長・事務総長当会訪問 於 相国寺
- 七月 三日 令和二年度宗教法人関係者人権問題研修会打合せ会出席 於 京都府庁
- 七月 七日 藤田尚則氏(創価大学法科大学院教授)弔問 於 藤田氏ご自宅(東京)
- * 七月二十九日 斎場焼骨灰供養法要開催 於 相国寺
- * 七月三十日 参勤僧会議開催 於 順正
- 八月 六日 第一回京都市観光振興審議会出席 於 京都経済センター
- * 八月 六日 『京仏』夏季号会報発送 於 京都仏教会事務所
- * 八月十六日 たなはた願文お焚きあげ・盂蘭盆会採燈大護摩供養法要開催 於 清水寺南苑
- * 八月二十八日 Go To Travel事業「地域共通クイーン制度」説明会出席 於 ホテルグランヴィア京都市
- * 八月三十一日 常務理事会開催 於 聖護院門跡
- 九月 二日 京都・花灯路推進協議会幹事会出席 於 京都経済センター
- * 九月 五日 宗教と社会実践センター第七回研究会開催 於 相国寺承天閣美術館
- 九月 八日 桑の碑法要参列 於 建仁寺
- 九月十二日 京都市深草墓園秋季慰霊法要参列 於 京都市深草墓園
- 九月二十四日 日本経済新聞元代表取締役社長 鶴田卓彦氏お別れの会参列 於 帝国ホテル
- * 九月二十八日 斎場焼骨灰供養法要開催 於 永観堂禅林寺
- 十月十一日 明日の京都文化遺産プラットフォーム第十回フォーラム出席 於 立命館大学朱雀キャンパス
- 十月十二日 京都・花灯路推進協議会幹事会 於 京都経済センター
- * 十月二十二日 令和二年第二回定例理事会(書面決議)

令和三年

- 十一月 一日 古典の日フォーラム二〇二〇出席 於 京都アルサホール
- 十一月 九日 近畿宗教連盟令和二年年度兵庫総会出席 於 日本基督教団神戸栄光教会
- * 十一月十三日 宗教と社会実践センター運営委員会開催 於 京都仏教会事務所
- 十一月十六日 真言宗総本山教王護国寺第二五七世長者東寺真言宗第三世管長 飛鷹宗隆大僧正 晋山傳燈奉告法要参列 於 教王護国寺 金堂
- 十一月二十日 京都・花灯路推進協議会幹事会出席 於 京都経済センター
- 十一月二十三日 明日の京都文化遺産プラットフォーム十年委員会出席 於 立命館大学朱雀キャンパス
- 十一月二十五日 第五十五回大阪府仏教徒大会出席 於 ホテル日航大阪
- * 十二月 二日 参勤僧会議開催 於 順正
- * 十二月 七日 成道会並びに永年勤続住職表彰式開催 於 泉涌寺
- 十二月十一日 京都府未来の匠「技の継承」事業の実施に係る専門家会議出席 於 祇園山鉾連合会
- 十二月十一日 嵐山花灯路開始(十二月二十日迄) 於 嵐山界限
- * 一月十三日 京都仏教会常務理事会開催 於 京都仏教会会議室
- * 一月十三日 令和二年第三回京都仏教会理事会開催 於 相国寺
- * 一月二十八日 『京仏』新年号会報発送 於 京都仏教会事務所
- 二月 十日 全日本仏教会加盟団体顧問弁護士連絡会WEB会議出席 於 京都仏教会事務所
- 二月十六日 文化遺産を未来につなぐネットワーク会議WEB会議出席 於 京都仏教会事務所
- 二月十七日 市・観光振興審議会WEB会議出席 於 京都仏教会事務所
- 三月十三日 京都市深草墓園春季慰霊法要参列 於 深草墓園
- 三月十五日 京都府未来の匠「技の継承」事業の実施に係る専門家会議出席 於 祇園祭山鉾連合会
- 三月二十四日 京都市観光協合理事会出席 於 京都東急ホテル
- 三月二十五日 京都文化交流コンベンションビューロー評議員会出席 於 ANAクラウンプラザホテル
- * 三月二十七日 「萬福寺に想いを寄せて」京都文化遺産対談開催 於 萬福寺
- 三月二十八日 明日の京都文化遺産プラットフォームシンポジウム出席 於 立命館大学朱雀キャンパス
- * 三月二十九日 京都仏教会令和二年第四回定例理事会開催 於 相国寺
- * 三月二十九日 京都仏教会令和二年第二回定時評議員会開催 於 相国寺
- 三月三十一日 文化遺産を未来につなぐ森づくり会議WEB会議出席 於 京都仏教会事務所

令和 2 年度 一般財団法人京都仏教会決算報告書

前期繰越金 2,295,529円
 当期歳入総額 61,101,442円
 当期歳出総額 62,237,343円
 次期繰越金 1,159,628円

自 令和 2 年 4 月 1 日
 至 令和 3 年 3 月 31 日

【歳入の部】

(単位：円)

款 項 目	科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
	前 期 繰 越 金	2,295,529	2,295,529	0
1	会 費 収 入	3,400,000	3,036,503	- 363,497
1	会 費 ・ 賛 助 金	3,400,000	3,036,503	- 363,497
1	一 般 寺 院 会 費	2,400,000	2,270,503	- 129,497
2	賛 助 会 費	1,000,000	766,000	- 234,000
2	活 動 協 力 金 収 入	31,750,000	25,569,253	- 6,180,747
1	教 化 伝 道	27,900,000	21,677,083	- 6,222,917
1	参 加 勤 行	17,000,000	15,662,600	- 1,337,400
2	骨 灰 法 要	600,000	203,000	- 397,000
3	墨 蹟 展	200,000	0	- 200,000
4	護 摩 木 供 養	2,300,000	511,483	- 1,788,517
5	花 ま つ り	0	0	0
6	観 光 推 進	3,000,000	1,000,000	- 2,000,000
7	世 界 文 化 遺 産	2,000,000	1,500,000	- 500,000
8	明日の京都文化遺産プラットフォーム	2,800,000	2,800,000	0
2	広 報 ・ 出 版	50,000	92,170	42,170
1	開 運 曆	50,000	92,170	42,170
3	宗 教 と 社 会 研 究 実 践 セ ン タ ー 協 力 金	3,800,000	3,800,000	0
1	「持続化給付金」と信教の自由」刊行等費用	3,800,000	3,800,000	0
3	特 別 寺 院 協 力 金	30,940,000	30,400,000	- 540,000
4	雑 収 入	60,000	34,116	- 25,884
1	雑 収 入	60,000	34,116	- 25,884
1	運 用 収 入	30,000	34,116	4,116
2	雑 収 入	30,000	0	- 30,000
	前 払 費 用 減 少 額		379,372	379,372
	未 払 金 増 加		1,682,198	1,682,198
	合 計	68,445,529	63,396,971	- 5,048,558

【歳出の部】

(単位：円)

款 項 目	子 算 額	決 算 額	増 減	
1	事 務 局 費	35,847,600	34,449,057	- 1,398,543
1	人 件 費	26,000,000	26,216,527	216,527
1	職 員 俸 給	21,500,000	21,759,145	259,145
2	厚 生 費	3,400,000	3,387,484	- 12,516
3	通 勤 費	600,000	569,880	- 30,120
4	退 職 準 備 金	500,000	500,018	18
2	管 理 費	7,497,600	6,935,000	- 562,600
1	通 信 ・ 運 搬 費	400,000	365,048	- 34,952
2	印 刷 費	300,000	309,838	9,838
3	備 品 費	600,000	614,531	14,531
4	消 耗 品 費	300,000	191,642	- 108,358
5	借 館 費	1,887,600	1,887,600	0
6	水 道 ・ 光 熱 費	160,000	157,810	- 2,190
7	旅 費 ・ 交 通 費	1,000,000	639,981	- 360,019
8	諸 会 負 担 金	800,000	650,200	- 149,800
9	顧 問 報 酬	1,600,000	1,547,800	- 52,200
10	営 繕 管 理 費	50,000	11,840	- 38,160
11	そ の 他 諸 経 費	400,000	558,710	158,710

(単位：円)

款	項	目	科	目	予	算	額	決	算	額	増	減															
3	1	1	渉	外・旅	費	1,400,000		657,550		-742,450																	
				渉	外	費	1,000,000		418,428		-581,572																
				慶	弔	費	200,000		48,480		-151,520																
	4	1	交	際	費	200,000		190,642		-9,358																	
						諸	会	議	費	700,000		412,292		-287,708													
	5	1	単	仏	・	参	勤	会	議	150,000		131,500		-18,500													
										そ	の	他	諸	会	議	550,000		280,792		-269,208							
	5	1	調	査	費	250,000		227,688		-22,312																	
						資	料	収	集	費	250,000		227,688		-22,312												
	2	1	1	活	動	経	費	30,230,000		26,264,349		-3,965,651															
								教	化	伝	道	活	動	16,200,000		12,716,862		-3,483,138									
1								参	加	勤	行	8,500,000		8,139,297		-360,703											
2								骨	灰	法	要	2,400,000		1,276,300		-1,123,700											
3								墨	蹟	展	200,000		0		-200,000												
4								護	摩	木	供	養	800,000		1,154,422		354,422										
5								観	光	推	進	1,400,000		231,819		-1,168,181											
6								仏	教	諸	行	事	関	連	1,000,000		4,672		-995,328								
7								花	灯	路	事	業	200,000		100,000		-100,000										
8								花	ま	つ	り	1,000,000		1,170,790		170,790											
9								成	道	会	300,000		307,558		7,558												
10		永	年	勤	続	表	彰	300,000		312,004		12,004															
11		国	際	文	化	交	流	費	100,000		20,000		-80,000														
2		1	広	報	・	出	版	活	動	2,530,000		2,635,272		105,272													
										1	曆	・	諸	出	版	他	200,000		261,700		61,700						
										2	機	関	誌	発	行	2,300,000		2,360,634		60,634							
3		1	ホ	ー	ム	ペ	ー	ジ	運	営	費	30,000		12,938		-17,062											
												宗	教	と	社	会	実	践	セ	ン	タ	ー	6,300,000		6,274,357		-25,643
												1	刊	行	等	費	用	4,000,000		4,468,240		468,240					
												2	研	究	会	費	700,000		494,128		-205,872						
												3	旅	費	交	通	費	600,000		292,399		-307,601					
4		研	究	員	諸	費	用	1,000,000		1,019,590		19,590															
4		1	そ	の	他	5,200,000		4,637,858		-562,142																	
						1	文	化	財	保	護	対	策	費	100,000		30,000		-70,000								
						2	世	界	文	化	遺	産	2,000,000		1,530,858		-469,142										
						3	明	日	の	京	都	協	力	金	3,000,000		3,000,000		0								
4		時	局	対	策	金	100,000		77,000		-23,000																
									1,500,000		1,500,000																
									21,389		21,389																
									2,548		2,548																
						72,400		0		-72,400																	
						2,295,529		1,159,628		-1,135,901																	
						68,445,529		63,396,971		-5,048,558																	

別紙の通り報告します。

令和3年5月27日
一般財団法人京都仏教会

理 事 長 有 馬 頼 底
評議員(財務担当) 大 西 真 興
事 務 局 長 長 澤 香 静

帳簿、証票書類を監査の結果、別紙の通り相違ないことを確認しました。

令和3年5月27日
一般財団法人京都仏教会

監 事 川 村 俊 弘
監 事 小 澤 昭 美

令和3年度 事業計画

〈総務部〉

〈*は新規事業〉

1. 諸 会 議	1. 役員会 2. 各種会議 3. 諸団体連絡会議 4. 懇親会	1. 理事会 年4回 2. 評議員会 年1回以上 3. 参事会 随時 1. 参勤僧会議 年2回以上 1. 全日本仏教会 2. 近畿宗教連盟 3. 京都府宗教連盟 4. 日本宗教連盟 5. 京都商工会議所 6. 京都市観光協会 7. 京都文化交流コンベンションビューロー 8. 東京都宗教連盟 9. 明日の京都 文化遺産プラットフォーム 1. 懇親会 年1回
2. 広報・調査	1. 広 報 2. 調 査	1. 会報の刊行 年2回 2. 会員への情報提供（随時） （税務・環境問題・法人問題など） 3. 仏教会ホームページ運営 （宗教と社会研究実践センターとの連携） 1. 各種調査・研究・統計・資料収集 （時事問題の分析）
3. 渉 外	1. 慶 弔 2. 渉 外	1. 慶弔（本山寺院及び一般関係） 1. 中央省庁・府市行政との交流 （文化庁・観光庁・林野庁） 2. 京都にて開催の行事・国際会議等への協力
4. 時事対策	1. 組織強化	1. 加入寺院・未組織地域の組織化 2. 賛助会員強化

〈事業部〉

1. 仏教文化・調査・研究 広宣	1. 仏教文化の啓蒙・ 広宣・保護	1. 仏教文化の研究などの奨励・協賛 2. 京都文化財団との交流
2. 教化・伝道 事業	1. 仏教美術・文物紹介 2. 講演活動 3. 音舞台シリーズ 4. 仏教思想の実践活動	1. 仏教番組の企画監修 （毎日放送において「京都知新」、「京都プロジェクト室」） 2. 大日本印刷の京都常設展への監修 1. 各宗派管長による仏教文化講演会の全国開催 * 1. 本年度第33回は西本願寺にて開催予定 1. 地域福祉活動・青少年育成 （授産施設「のぞみ学園」、福祉施設・仏教老人ホーム、保育園への慰問） 2. カウンセリング（信仰問題・情報提供） 3. 文化財を守り伝える京都府基金 4. 災害募金箱の設置

	<p>5. 国際文化交流 6. 仏教諸行事</p> <p>7. 合同慰霊行事</p>	<p>* 1. 12月 台湾長流美術館にて墨蹟展開催予定</p> <p>1. お花まつり・こども花まつり (おしゃかさまを讃える夕べは中止)</p> <p>2. 盂蘭盆会大護摩供法要・成道会</p> <p>3. 京の七夕神仏合同法要 (清水寺)</p> <p>1. 参加勤行 (中央斎場の読経僧)</p> <p>2. 深草墓園 (京都府宗教連盟共催)</p> <p>3. 春秋彼岸焼骨灰供養法要 (春は7月に延期・秋は執行予定) (京都中央葬祭業協同組合共催)</p>
<p>3. 寺院運営 援助事業</p>	<p>1. 寺院援助活動</p> <p>2. 寺院運営研修案内</p>	<p>1. 宗教法人の財務・税務及び法律対策 (顧問弁護士・税理士の派遣)</p> <p>2. 永年勤続住職の表彰 (50年 知事表彰 30年 理事長表彰)</p> <p>1. 人権研修会 (京都府・全日仏)</p>
<p>4. 広報・出版 事業</p>	<p>1. 定期刊行物</p>	<p>1. 会 報 年2回</p> <p>2. 開運暦・図書紹介</p>
<p>5. 観光推進 事業</p>	<p>1. 各種関連事業</p> <p>2. 役員会・諸団体連絡 会議</p>	<p>1. 「京都・花灯路」事業 (東山は中止)</p> <p>2. 京都歴史遺産寺院企画 (JR東海)</p> <p>3. 祇園白川ライトアップ事業(中止)</p> <p>4. 京都府内北部・南部観光開発 (京都府と連携)</p> <p>1. 観光推進事業部会議</p> <p>2. 京都市観光協会との会議</p> <p>3. 各種観光関連業界との会議</p>
<p>6. その他 諸事業</p>	<p>1. 各種関連協議会</p>	<p>1. 文化遺産を未来につなぐ森づくりの為の有識者会議</p> <p>2. 外来種生物の文化財に与える影響について (関西野生生物研究所)</p> <p>3. 明日の京都 文化遺産プラットフォーム(立命館大学)</p> <p>* 4. 蘇る羅城門推進事業</p>

〈宗教と社会研究実践センター〉

<p>1. 諸 会 議</p>	<p>1. 各種会議</p>	<p>1. 研究会 年2回以上</p> <p>2. 運営委員会 随時</p> <p>3. 関連団体との協議</p>
<p>2. 広報・調査 研究・啓蒙 活動</p>	<p>1. 広 報</p> <p>2. 宗教法人法の研究・ 啓蒙活動</p>	<p>1. 研究本の刊行 年1回</p> <p>* 「監視国家と宗教活動」 —キャッシュレス社会以降のデジタル化の中で—</p> <p>1. 各本山、地方の教区での宗教法人法に関する研修 会への協力</p> <p>2. 包括宗教法人管理者研究協議会 宗教法人実務者研修会 (文化庁)</p>
<p>3. 関 連 事 業</p>	<p>1. 時事対策</p>	<p>1. 寺院の厚生年金加入問題・持続化給付金問題</p> <p>2. 寺院の「公益性」問題</p>

令和3年度 予 算 書

当期歳入総額 65,150,000円

当期歳出総額 65,150,000円

自 令和3年4月1日

至 令和4年3月31日

【歳入の部】

(単位：円)

款 項 目	科 目	本年度予算額	昨年度予算額	備 考
1	会 費 収 入	3,200,000	3,400,000	
1	会 費 ・ 賛 助 金	3,200,000	3,400,000	
1	一 般 寺 院 会 費	2,400,000	2,400,000	¥2,000(1口)
2	賛 助 会 費	800,000	1,000,000	¥3,000(1口)
2	活 動 協 力 金 収 入	30,950,000	31,750,000	
1	教 化 伝 道	27,100,000	27,900,000	
1	参 加 勤 行	17,000,000	17,000,000	
2	骨 灰 法 要	300,000	600,000	
3	墨 蹟 展	200,000	200,000	
4	護 摩 木 供 養	2,300,000	2,300,000	
5	花 ま つ り	0	0	
6	観 光 推 進	3,000,000	3,000,000	
7	世 界 文 化 遺 産	1,500,000	2,000,000	
8	「明日の京都」文化遺産プラットフォーム	2,800,000	2,800,000	
2	広 報 ・ 出 版	50,000	50,000	
1	開 運 曆	50,000	50,000	
3	宗教と社会研究実践センター協力金	3,800,000	3,800,000	
1	「監視国家と宗教活動」-キャッシュレス社会以降のデジタル化の中で-刊行協力金	3,800,000		
	「[持続化給付金]問題と信教の自由」刊行等費用		3,800,000	
3	特 別 寺 院 協 力 金	30,940,000	30,940,000	
4	雑 収 入	60,000	60,000	
1	雑 収 入	60,000	60,000	
1	預 金 利 息	30,000	30,000	
2	雑 収 入	30,000	30,000	
	預 金 取 崩			
	歳 入 合 計	65,150,000	66,150,000	

【歳出の部】

(単位：円)

款 項 目	科 目	本年度予算額	昨年度予算額	備 考
1	事 務 局 費	35,997,600	35,847,600	
1	人 件 費	26,500,000	26,000,000	
1	職 員 俸 給	22,000,000	21,500,000	事務局員3名他2名
2	厚 生 費	3,400,000	3,400,000	社会保険料等
3	通 勤 費	600,000	600,000	
4	退 職 準 備 金	500,000	500,000	
2	管 理 費	7,247,600	7,497,600	
1	通 信 ・ 運 搬 費	350,000	400,000	郵便・宅配便等
2	印 刷 費	300,000	300,000	コピー機保守料他
3	備 品 費	600,000	600,000	什器・車両関係
4	消 耗 品 費	300,000	300,000	

(単位：円)

款	項	目	科	目	本年度予算額	昨年度予算額	備	考
		5	借	館 費	1,887,600	1,887,600		事務所家賃
		6	水	道 ・ 光 熱 費	160,000	160,000		水道 ・ 電気
		7	旅	費 ・ 交 通 費	600,000	1,000,000		
		8	諸	会 負 担 金	800,000	800,000		全日仏 ・ 府宗連等
		9	顧	問 報 酬	1,600,000	1,600,000		弁護士 ・ 会計士 ・ 司法書士
		10	営	繕 管 理 費	150,000	50,000		
		11	そ	の 他 諸 経 費	500,000	400,000		
	3		渉	外 ・ 旅 費	1,300,000	1,400,000		
		1	渉	外 費	1,000,000	1,000,000		
		2	慶	弔 費	100,000	200,000		
		3	交	際 費	200,000	200,000		
	4		諸	会 議 費	700,000	700,000		
		1	単	仏 ・ 参 勤 会 議	150,000	150,000		
		2	そ	の 他 諸 会 議	550,000	550,000		
	5		調	査 費	250,000	250,000		
		1	資	料 収 集 費	250,000	250,000		調査 ・ 研究を含む
2			活	動 経 費	29,080,000	30,230,000		
	1		教	化 伝 道 活 動	14,900,000	16,200,000		
		1	参	加 勤 行	8,500,000	8,500,000		参勤僧8名法礼等
		2	骨	灰 法 要	1,600,000	2,400,000		年3回開催
		3	墨	蹟 展	200,000	200,000		台湾長流美術館にて 12月に開催予定
		4	護	摩 木 供 養	800,000	800,000		
		5	観	光 推 進	1,400,000	1,400,000		
		6	仏	教 諸 行 事 関 連	300,000	1,000,000		
		7	花	灯 路 事 業	200,000	200,000		
		8	花	ま つ り	1,200,000	1,000,000		こども花まつり・教化資料等 寺院・福祉施設配布等含む
		9	成	道 会	300,000	300,000		
		10	永	年 勤 続 表 彰	300,000	300,000		
		11	国	際 文 化 交 流 費	100,000	100,000		
	2		広	報 ・ 出 版 活 動	2,580,000	2,530,000		
		1	暦	・ 諸 出 版 他	250,000	200,000		
		2	機	関 誌 発 行	2,300,000	2,300,000		年2回発行
		3	ホ	ー ム ペ ー ジ 運 営 費	30,000	30,000		
	3		宗	教 と 社 会 研 究 実 践 セ ン タ ー	6,600,000	6,300,000		
		1		「[持続化給付金]問題と信教の自由」刊行等費用		4,000,000		
		2		「監視国家と宗教活動」-キャッシュレス社会以降のデジタル化の中で-刊行協力金	4,000,000			
		3	研	究 会 費	700,000	700,000		研究会2回以上開催
		4	旅	費 交 通 費	600,000	600,000		
		5	研	究 員 諸 費 用	1,300,000	1,000,000		研究員顧問料他
	4		そ	の 他	5,000,000	5,200,000		
		1	文	化 財 保 護 対 策 費	100,000	100,000		文化財の森等
		2	世	界 文 化 遺 産	1,500,000	2,000,000		JR東海対談企画等
		3	明	日 の 京 都 協 力 金	3,000,000	3,000,000		
		4	蘇	る 羅 城 門 推 進 事 業 費	300,000			
		5	時	局 対 策 金	100,000	100,000		
			予	備 費	72,400	72,400		
			歳	出 合 計	65,150,000	66,150,000		

京都未来の匠 「技の継承」事業

祇園祭各山鉾保存会や府内の神社、寺院が所有する文化資料の復元・新調等を通じて若手職人（京もの認定工芸士）等が京の名工等の指導を受けながら、高度かつ稀少な技術の修得・技術向上を目的とした技術の研鑽・修得を行う。平成二十一年度から、京都府と当会、神社庁、祇園祭山鉾連合会等が協力し行っている。

令和二年度対象寺院

興聖寺（宇治市）屏風（復元修理）

修理前



修理後



寺院会費

当会もおかげさまをもちまして仏教諸行事、文化福祉、研究活動等順調にかつ積極的に推移してきております。これもひとえにご寺院各位のご理解・ご協力の賜物と存じます。今後はますます京都が宗教都市として発展しつづけるために、布教・広宣を行い、また多様化する現代社会の情報提供や宗教学法に關する諸問題につきましてもお役に立てるようはかつて参りたいと存じます。つきましては通信費の一部として令和3年度分の会費を同封の郵便振替にてご納入の程、よろしくお願い申し上げます。

賛助会費

各界一般会員のみなさまにおかれましてはご健勝のことと存じます。平素は何かと本会の活動に対し、ご理解、ご協力賜り厚く御礼申し上げます。おかげをもちまして賛助会員につきましては年々増え続けております。この歴史と伝統のある京都において様々に交流や文化事業を通じて、よりよい京都に発展すべく努力して参りたいと存じます。当会の会報を年二回お送り申し上げますことや諸行事のご案内をみなさまとの情報交換の場とし、今後も活動をしてゆきたいと存じます。各位におかれましては、なにとぞこの趣旨にご賛助賜り令和3年度分の賛助会費のご納入をよろしくお願い申し上げます。なおご納入は同封の郵便振替にてよろしくお願い申し上げます。

発行日 令和三年八月一日

発行所 一般財団法人 京都仏教会

〒602 0898 京都市上京区今出川通

烏丸東入相國寺門前町

六三六一一

電話 (〇七五)二三三―六九七五

FAX (〇七五)二三三―六九七六

印刷所 (株)精巧社

都 古 人 法 士 理 税

〒600-8431 京都市下京区綾小路通室町西入る
善長寺町139番地AMI四条烏丸ビル405号
TEL・FAX: 075 (352) 7778
E-mail: nakamasa@bridge.ocn.ne.jp

お葬式 家族葬 公益社

北ブライツホール [堀川紫明] 山科ブライツホール [五条外環]
 中央ブライツホール [五条東山] 伏見ブライツホール [丹波橋新堀川北]
 南ブライツホール [油小路八条] 向島宇治ブライツホール [宇治槇島]
 西ブライツホール [五条西大路] 大津ブライツホール [大津駅南]
家族葬専用 別邸 向島宇治 [宇治槇島] 家族葬専用 別邸 大津 [大津駅南]

☎ 0120-004-200

24時間365日対応、無料相談

公益社 京都

検索

葬 儀

— 人生の終り、もうひとつの門出を美しく —



あんさん祭典

もよりの営業所へご連絡ください。(24時間営業)
 寝台自動車のご用命も承ります。

京都営業所 ☎ (075) 682-4444

宇治営業所 ☎ (0774) 32-4242

高槻営業所 ☎ (072) 682-1121

大津営業所 ☎ (077) 524-4444

亀岡営業所 ☎ (0771) 22-0042

経済産業大臣認可/全日本葬祭業協同組合連合会加盟

京都中央葬祭業協同組合員名簿

<http://www.kyosokyoku.jp/>



信頼と安心の

全葬連 葬祭サービスガイドライン

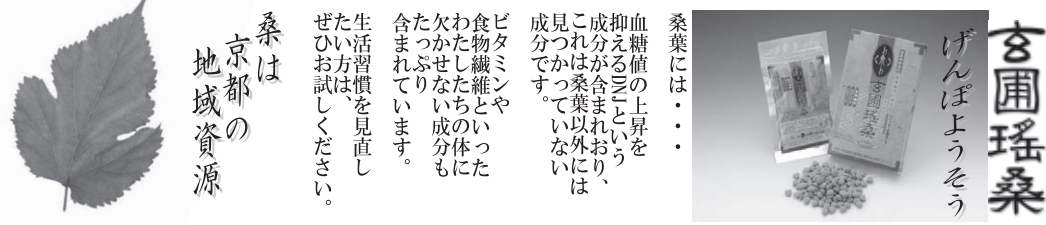
●事前相談 ●サービス内容の説明 ●明瞭価格 ●アフターサービス

京葬協は、葬祭サービスガイドラインを遵守いたします

会 社	代 表 者	電 話	所 在 地
㈱ まる い ち	小林 正明	075-441-6254	上京区千本上立売通作庵町518
(有) 京 都 日 葬	九谷田満雄	075-811-4242	中京区西ノ京塚本町13-11
花 安	吉村 和	075-463-7276	中京区西ノ京御輿岡町20
㈱ 公 益 社	松井 雄	075-221-4000	中京区烏丸六角上饅頭屋町608
㈱京都セレモニー	松井 雄	075-221-8400	中京区烏丸六角上饅頭屋町608
㈱公益サービスセンター	松井 信五	075-551-3422	東山区清閑寺山ノ内町46-2
篤 政	滝口 泰彦	075-691-0826	南区竹田街道大石橋上ル西側
ライフアンドデザイン・グループ 西日本㈱	伊藤 健	075-933-4242	南区久世高田町35-3
あ め 直	阪邊賢津子	075-611-0400	伏見区京町六丁目54-1
㈱のじり葬儀店	野尻 智美	075-611-4211	伏見区治部町123
㈱ 山 長	山田 一	075-861-1422	右京区太秦西蜂岡町1
㈱ ア シ ス	岡本 研三	075-932-4242	向日市寺戸町西田中瀬3

会 社	代 表 者	電 話	所 在 地
(有)城陽葬祭村	杉村 等	0774-52-2140	城陽市久世南垣内116
㈱宇治葬祭篤辰	木村 久孝	0774-31-8072	宇治市五ヶ庄芝の東53
山城葬祭佛現丸屋	小川 保善	0774-82-2064	綴喜郡井手町井手柏原83-2
花 福	福田 善文	0774-82-2016	綴喜郡井手町井手宮ノ本89
(有) 阪 口	阪口 仁	0774-76-2146	木津川市加茂町駅西1-5-3
平 城 公 益 ㈱	西川 弘人	0774-72-5709	木津川市相楽島井7-1
㈱ 松本 仏具店	松本 光雄	0771-22-0279	亀岡市安町86
(有) い ち た に	一谷 和弘	0771-62-4949	南丹市園部町小山東町水無38
㈱セレモニーまつだ	松田 政一	0772-46-2264	与謝郡与謝野町字弓木956
おのえメモリアル	尾上 康則	0772-42-5555	与謝郡与謝野町算所229-1
令 和 (有)	寺尾 純	0772-72-2002	京丹後市網野町網野3156

最近のお葬式はどのように行われているか、また、費用はいくら位かかるか!? など、お葬式の内容を知りたい方は、上記の各店へ電話でお問い合わせ下さい。



農林水産省
経済産業省
認定

宮圃瑤桑
げんぼようそう

桑葉には・・・
血糖値の上昇を
抑える三とらう、
これは桑葉以外には
見つかっていない
成分です。

ビタミンや
食物繊維といった
わたしたちの体に
欠かせない成分も
含まれています。

生活習慣を見直し
たい方は、ぜひ
お試しください。

桑は
京都の
地域資源

桑に関するお問い合わせは・・・

株式会社おのみやす本舗
TEL 075-791-1728 http://www.onomiyasu.co.jp
FAX 075-791-1745 info@onomiyasu.co.jp

授与品・記念品・その他一式

井筒授与品店

フリーダイヤル TEL 0120-075-820
フリーダイヤル FAX 0120-075-890

〒601-8348
京都市南区吉祥院観音堂町23番地
E-Mail: izutsu5@iz2.co.jp



文化財建造物修復・社寺建築設計施工

木澤工務店

代表取締役 木澤善之

本社 京都市左京区浄土寺真如町111番地-1
TEL (075) 751-0628 (代) FAX (075) 752-9430

営業所・工場 滋賀県愛知郡愛荘町中宿173番地
TEL (0749) 42-2859 (代) FAX (0749) 42-5727

お墓の事ならなんなりと

一般建設業の許可：京都府知事 許可（般-23）第38917号

石のカウンセラー
株式会社 石 都

遠近を問わず
お伺い致します
(見積り無料)

ヨクゾ ヨイイシ
☎ (075)491-4114(代) FAX (075)491-2426

京都市北区小山北玄以町24番地（上賀茂橋西詰バス停前）

京石塔
石工事
工念碑

株式会社 石 寅

石工事・土木工事・造園工事（京都府知事認可）

本店 (〒616-8376) 京都市右京区嵯峨天竜寺瀬戸川町1-10
電話 (075) 881-1481 番 FAX (075) 881-1480 番

新丸太町店 (〒616-8305) 京都市右京区嵯峨広沢御所ノ内町33-2
電話 (075) 882-2124 番 FAX (075) 882-2128 番

丹波営業所 (〒622-0211) 京都府船井郡京丹波町上野中野31-1
電話 (0771) 82-2681 番 FAX (0771) 82-2751 番

京丹波店 (〒622-0213) 京都府船井郡京丹波町須知天神18-1
電話 (0771) 89-1481 番 FAX (0771) 89-1480 番

石寅ホームページ URL: http://www.ishitora.co.jp/

社寺建築設計施工

伸和建設株式会社

代表取締役 北尾行弘

〒615 京都市右京区西院上花田町21
-0007 (西大路三条西入ル南側)
電話 075-311-0054 (代表)
FAX 075-322-0152

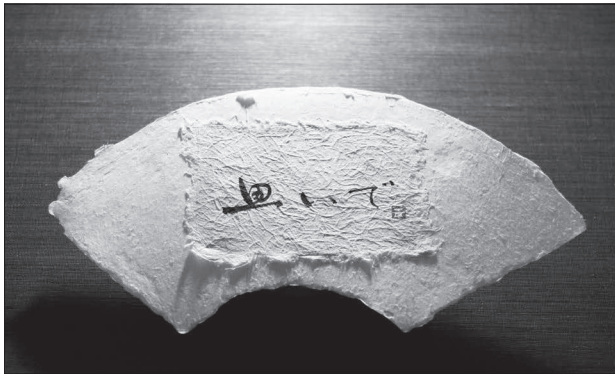


世界の歴史都市、
京都の中央に位置し、
世界文化遺産「二条城」の前に佇む
ANA クラウンプラザホテル京都。



ANAクラウンプラザホテル京都

〒604-0055 京都市中京区堀川通二条城前
Tel 075-231-1155
www.anacpkyoto.com



京都人さえもが恋するホテル。

京都ブライトンホテル

〒602-8071 京都市上京区新町通中立売(御所西)
TEL.075-441-4411
<http://kyoto.brightonhotels.co.jp>

京表具

表具全般 古書画修復

前田秀暁堂

〒604-8121
京都市中京区柳馬場通錦小路上る
TEL.FAX.075(221)5754

精進料理


上うえ 幸こう

〒604-8503 京都市中京区大宮通り錦上ル
電話 (075) 821-3872
(075) 821-3837

文化財修理・保存／文化財調査／絵画・墨蹟・一般表具一式
御本山御用達 古文化財保存修理研究所 (有)矢口浩悦庵

京表具 こう 浩 えつ 悦 あん 庵


〒602-8025 京都市上京区衣棚通丸太町上る今薬屋町 318 番地
Tel.075-254-6021/Fax.075-254-6022 <http://www.koetsuan.com>



**伝統の心を映した
古都のやすらぎ**

ご予約・お問い合わせは _____
◆東急ホテルズ予約センター◆
東京予約センター Tel.(03)3462-0109
札幌予約センター Tel.(011)533-1090
名古屋予約センター Tel.(052)202-1090
大阪予約センター Tel.(06)6314-1090
福岡予約センター Tel.(092)262-1099

ご宿泊や、おくつろぎのひとつに
また、会合などさまざまなお集まりに、
お気軽にご利用ください。



京都 東急ホテル
〒600-8519 京都市下京区堀川通五条下ル(西本願寺北側)
Tel: 075-341-2411 Fax: 075-341-2488
www.kyoto-h.tokyuhotels.co.jp



35th
anniversary

なご すみか
こころ和める、ここだけの栖

洛北の豊かな自然の中で
ごゆっくりとお過してください。


The Prince
Kyoto Takaragaike

ザ・プリンス 京都宝ヶ池
〒606-8505京都市左京区宝ヶ池
TEL : 075-712-1111



Seibu Group でかゆる人も、ほほえむ人へ。

筆・墨・硯・紙・簡易表装・短冊
色紙・中国製筆・墨・硯・紙

株式会社 **松 栞 園**

〒600-8075
京都市下京区柳馬場通仏光寺下ル
電 話 (075) 351-6380 (代表)
FAX (075) 361-8006



北尾石材
有限会社
URL: www.good-stone.com
大原店 / 八潮店 / 市原野店 / 京北店
TEL: 075-781-9523 FAX: 075-781-0510
〒608-8225 京都市左京区東大路百萬遍上る東側

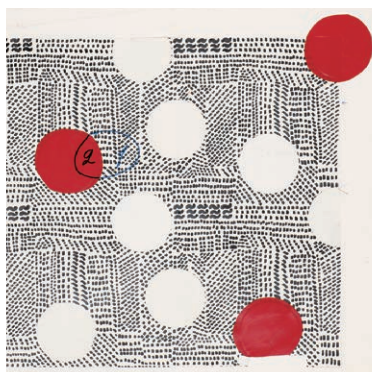
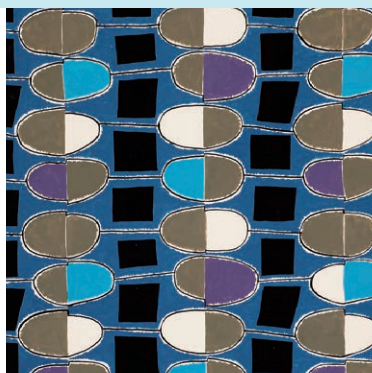
心和むひととき…… JUNSEI

名物ゆどうふ
南 禅 寺

清水順正おかべ家
清水寺門前……TEL (075) 541-7111
祇園円山かがり火
円山公園駐車場前…TEL (075) 541-0002

左京区南禅寺門前 TEL (075) 761-2311
FAX (075) 751-8812

北欧・フィンランドの自然豊かなデザインの世界



創業200周年記念

フィンレイソン 展

—フィンランドの暮らしに愛され続けたテキスタイル—

2021 10.9 sat — 2022 1.10 mon

○休館日 月曜日(祝日は開館、翌日休館)、年末年始(12月27日～1月3日)

○開室時間 10:00～18:00(金曜日は19:30まで)※入場はそれぞれ30分前まで

○主催 京都府、京都文化博物館、MBSテレビ

●入場料(税込): 一般1,500円(1,300円) 大高生1,100円(900円) 中小学生500円(300円)

※()内は前売券および20名以上の団体料金。

※前売券は2021年8月7日(土)～10月8日(金)までの期間限定販売。

展覧会公式HP www.mbs.jp/finlayson_kyoto/

フィンレイソン展 京都

検索



Finlayson © Finlayson Oy

THE MUSEUM OF KYOTO

京都文化博物館

〒604-8183 京都市中京区三条高倉
TEL.075-222-0888 FAX.075-222-0889
www.bunpaku.or.jp

上左: ミリヤ・テッサリ作 オリジナルデザイン原画「アンヌカ(女性の名前)」(1976年)/フェルッザ博物館 所蔵 上中: ライナー・コスタラ作 「エレファンティ(象)」(1969年)/タンベレ歴史博物館 所蔵 上右: ヘレナ・ベルヘントウ作 オリジナルデザイン原画(1957年)/フェルッザ博物館 所蔵 中左: ウララ・ヘルホ作 オリジナルデザイン原画(1973年)/フェルッザ博物館 所蔵 中央: キンモ・カイヴァント作「コッタンを着て学校に行く」(1962年)/タンベレ歴史博物館 所蔵 中右: ウララ・ヘルホ作 オリジナルデザイン原画(1973年)/フェルッザ博物館 所蔵 下左: アス・サーリ作 「アヤトスの庭」(2006年)/タンベレ歴史博物館 所蔵 下中: 富田用(ナナ) (織り、綿 1913年)/タンベレ歴史博物館 所蔵 下右: アイニ・ヴァーリ作 オリジナルデザイン原画(1975年)/フェルッザ博物館 所蔵